



知里幸恵

銀のしずく降る降るまわりに

ちりゆきえ ましほ
知里幸恵・真志保

「銀のしずく降る降るまわりに
金のしずく降る降るまわりに」
『アイヌ神謡集』の一節である。
この『アイヌ神謡集』を書き残し、19歳と
いう若さでこの世を去った知里幸恵（1903～
1922）の生誕の地は、この登別。彼女は、両
親あての最後の手紙の中で、「一生を登別で
くらしたい」としたためている。
また、幸恵の弟で北海道大学
文学部教授の知里真志保（1909
～1961）は、アイヌ民族の言語
や神話、伝説などを研究し、ア
イヌ文化研究の基礎を確立した
偉大な言語学者である。



知里真志保

シンボルオブジェ 『光のしずく』

登別地区の有志により、
知里幸恵が書き残した『ア
イヌ神謡集』をモチーフに
製作され、登別駅前に設置
された。
冬季に点灯され、道行く
人を光で魅了する。



正月用しめ飾りづくり
（文化伝承館）

歴史と文化を楽しく、 正しく伝える

●郷土資料館・文化伝承館

歴史資料の展示のほか、テーマを定めて郷
土の歴史や文化などの学びや子どもからお年
寄りまでが楽しく学習できる『郷土資料館体
験学習』などが行われている。

体験学習では、市民ボランティアグループ
の協力により、子どもからお年寄りまでが、
楽しく学習できるさまざまなメニューを用意。
『ぞうりづくり』や『ミニこいのぼりづく
り』、『ひな人形づくり』といった日本の良
き慣習を子どもたちに伝えている。



郷土資料館

先人から、伝えられた日本の
文化、ふるさと登別の文化。
歴史の扉をそつと押すと、先
人の知恵に触れ、その息使いが
聞こえてくる。
ふるさとの文化創造のステ
ージは、私たちの暮らしのなか
にある。
市は、子どもからお年寄りま
で、生涯を通して学習できる社
会教育活動の中で、ふるさとの
文化の伝承と創造に取り組んで
いる。

知る・伝える・創る ふるさとの文化を



わんぱくサムライ体験（郷土資料館）

